

千住大橋： 家康が江戸に入ってすぐに 大川に初めて架橋される



2019年10月（東京都荒川区・千住大橋）

◆隅田川（大川）に最初に架けられた橋

千住大橋は最初、家康が江戸に入った直後の1594年に大川（現隅田川）に架けられた最初の橋で、北へ向かう街道筋となっていました。その後何度も架け替えられましたが、江戸時代には洪水での流失はなかったようです。芭蕉が「奥の細道」に旅立った北の玄関口としても知られています。

◆東京を代表する歴史ある橋

江戸時代の橋は、歌川広重の名所江戸百景「千住乃大はし」として描かれています。東京市復興局がつくった現在のタイドアーチ橋の骨格を内側から眺めると、まるで生き物の骨の中にいるようです。

岡村幸二（JRRN会員）